

コロナ禍における学生の学びと課題

Student Learning and Issues Amid the COVID-19 Pandemic

今井 恵美子¹⁾ ・ 大宮 由布子²⁾ ・ 朴 仙子³⁾
IMAI Emiko, OMIYA Yuko, PIAO Xianzi

井上 美恵子⁴⁾ ・ 朴 賢淑⁵⁾
INOUE Mieko, PARK Hyunsuk

キーワード：新型コロナウイルス, ICT, 学生調査

Key words : COVID-19, ICT education, Student Survey

要 旨

新型コロナウイルス感染症の拡大により全世界がパンデミックの元におかれて3年が経過した。新型コロナウイルスの拡大は大学においても例外なく大きな影響を受けている。特に日本の教育の現場においては、授業形式の在り方が問われることになり、従来の対面授業をICT教育への転換が求められた。よっていままで十分活用してこなかったICT技術を活用することで、学習者が時間や場所に拘ることなく授業を受けられる面もあった。しかし、日本の教育の現場でのICT技術の活用は始まったばかりであり、大学において大きな課題突き付けている。

そこで本稿では、コロナ禍における授業提供体制に対して学生はどのように捉え、課題だと考えているかを学生への意識調査を実施し検討を行っている。

Abstract

Three years have elapsed since COVID-19 infections spread throughout the world to pandemic proportions. Without exception, universities have also been greatly affected by the spread of COVID-19. In particular, questions have been raised about the style of teaching in educational environments in

¹ ビジネスキャリア学科

² 歯科衛生学科

³ 仙台青葉学院短期大学非常勤講師

⁴ 保健室

⁵ 観光ビジネス学科

Japan, and a switch from the conventional in-person classes across to ICT education has been accepted. Due to this, the use of ICT technology, which was not used fully up until now, has resulted in classes being taken without students being tied to specific times and places. Furthermore, the use of ICT technology in educational environments within Japan has only just started, and this presents an enormous issue for universities.

This paper examines how students are coping with the system of providing classes amid the COVID-19 crisis and whether or not they believe that this is an issue based on the results of a student awareness survey.

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症の拡大により教育の現場においては大きな変化をもたらした。まず、ハード面においてはネット環境の整備をはじめ授業受講のための端末の確保、ソフト面の授業運営に関しては教員主導で行わなければならなかった。また、学生側もオンライン授業を受けられるような準備を急がなければならなかった。政府からの通知書は授業に対する内容が中心となっており、具体的なガイドラインが示されたわけではない。当時、新型コロナウイルス感染症は世界の人々が初めて経験するものであったためどう対応すべきなのかについては手探り状態であったと言っても過言ではない。よって日本政府も未知のウイルスへの対応に追われ、また日本の大学教育の在り方にも大きな影響を与えた。大学側においてはICT活用がそれほど進んでいなかったため各大学の状況に合わせた授業運営が求められていたのも事実である。特に3月、4月は卒業式と入学式などの時期であったが、感染拡大を防ぐための装置としてほとんどの大学は予定を変更し式を行わず新年度を迎える状況であった。

大学の授業においては、開始時期を遅らせてオンライン授業への切り替えを進めつつ新型コロナウイルス感染の拡大を防止するための取り組みが大学の学年暦すべてに影響を受けることとなった。

2020年9月以降は対面授業を行う大学が増えたものの、教室の中での感染防止対策をどうするかにおいては各大学の裁量に委ねていたのであ

る。よって、多くの大学では対面への転換を試みつつも対面授業で感染者が出た場合は対面授業を中止しオンラインへ切り替えていた。このように感染状況を見極めながら授業体制を臨機応変に変えながら学習権を保障するために、政府も大学も一環となり進められた。しかし、オンライン授業を実施するにあたり政府も大学も十分な検証が行ったわけではなく、また、学習効果についてのエビデンスが明確だったわけでもない。

そこで本稿ではコロナ禍における授業提供体制に対して学生はどのように捉え、課題だと考えているかを学生への意識調査をとおして仙台青葉学院短期大学学生の事例を考察し、アンケート調査結果に基づき検討を行うこととする。

2. コロナ禍における大学教育

この節ではコロナ禍で進められた大学教育を政府や文部科学省の対応に基づいて取り上げることとする。

2年前の春に新型コロナウイルスの感染が急速に広がるなかで、4月に至って緊急事態宣言が発出され広域への移動が制限されることになった。大学において4月は入学式や新入生の受け入れなど新学期がスタートする時期でもある。しかし、新型コロナウイルスの影響により移動が制限されていたため授業開始時期の遅れや授業形式の変更を余儀なくされた。こうした状況を鑑み文部科学省の通知では1単位の学修時間が45時間であることを踏まえ、授業の円滑な運営や学生に不利益が生じないように遠隔授業の実施や補講実施、また、課題研究などとおした学修時間の確保が進

められた。また大学設置基準第21条などで定める学修時間の確保ができる場合に限って10週または15週の期間について弾力的にできるとともに授業計画（シラバス）の変更も認められることとなった。このように学習者に不利益にならないように大学側には授業提供体制への整備が求められ、多くの大学がその対応に追われることとなった。

2022年現在もコロナ感染症が長引くなかで大学の授業形式を対面従業や双方型授業、オンデマンド授業など状況に応じて臨機応変に対応している大学が増えてきている一方でオンライン授業をめぐっては学生からの不満の声が上がっているのも事実である。2020年10月16日に文部科学省が、対面授業が半数未満の大学名を公表する方針の発表もあり、多くの大学がこのことを受け対面に切り替えるための準備を進めていた。一方、大学においては様々な事情により対面に切り替えることに躊躇していたが、対面授業が少ない場合は学生からバッシングを受けることもあった（山内2021）。⁶ 一方、文部科学省が行った2021年10月7日の調査では、半分以上の対面授業を予定していた大学などは、1158校中1130校（約97.6%）であり、中でも7割以上が対面授業を予定した大学は83.2%であった。

また、文部科学省は大学等の2022年度後期授業の実施方針等に関する調査結果を公表している。後期授業は99.8%の大学等が「半分以上を対面」、98.5%が「7割以上を対面」で行うと回答していた。全対面を予定する大学なども6割を超えていた（9月30日現在のデータ）。

一方、オンライン授業をめぐって文部科学省から2020年3月24日、「令和2年度における大学等の授業の開始等について」通知された。この通知では、7つの項目が上げられており、新型コロナウイルス感染の拡大防止配置の実施や遠隔授業など学生への配慮の内容になっている。

具体的には①大学等における感染拡大の防止、②学事日程等の取扱い、③遠隔授業の活用、④授業料等の学納金に係る取扱いや学生の修学支援、⑤留学生に関する配慮、⑥学生に関する配慮、⑦非常勤職員等の業務体制の確保に関することが盛り込まれた。

特に③遠隔授業の活用については、学生の学修機会を確保することや感染リスクを下げるための取り組みであり、大学設置基準法第25条第2号に基づきテレビ会議システムなどを利用した双方向型の遠隔授業や、オンライン教材を用いたオンデマンド型の遠隔授業を自宅で受講できるようにした。しかし、遠隔関連授業における学修効果に関する検証については十分だと言いきれない。

このように文部科学省をはじめ大学の現場では十分な議論に基づいて授業の方向性が提示されたとはいえない。しかし、教育の現場では今年もコロナの影響を受けており、また授業形式においても柔軟に対応していることが文科省の調査からも伺える。

一方、ウィズコロナ時代を迎えて大学側は授業形式を上々に対面授業に切り替えているなかで、学生にとってオンライン授業が学びの場となっているのかについて疑問の声が上がるようになり、教員からはその検証の必要性が指摘されることもしばしばあった。このことについて山路茜⁷は質的研究をとおして、オンライン授業が学生にとって学びの場として機能を果たしていることを学生のインタビュー調査から有効であることが検証されている。しかし、対面授業の経験を基準に求められている学びをオンライン授業では得られないと捉える学生がいるものの、学生らが客観的に学べていなかったとは言いきれないことが指摘されている。よって、対面授業とオンライン授業のメリットやデメリットを検証したうえで学生の学びを取り上げる必要があることも指摘されている。まだコロナが終息されていないなかで今後の

⁶ 山内祐平、2021「コロナ禍における大学教育のオンライン化と質保証」名古屋高等教育研究、21.5-25。

⁷ 「コロナ禍におけるオンライン授業：本当に学んでいたのか」「コロナ禍で学生はどう学んでいたのか－質的研究によって明らかになった実態」2021.10. ジェアス教育新社。

授業のあり方について論じるのは時期尚早かもしれないが、今回のようなリスクを少しでも減らすためには、また、大学が学生の学ぶ権利を保障するためには基礎データを蓄積は欠かせない。

よって次の章では、仙台青葉学院短期大学の学生調査で得たデータに基づき検討を行うこととする。

3. コロナ禍における学びの現状

—仙台青葉学院短期大学学生の意識調査から—

3-1 アンケート調査結果

今回のアンケート調査は10月31日～11月8日に行ったものである。

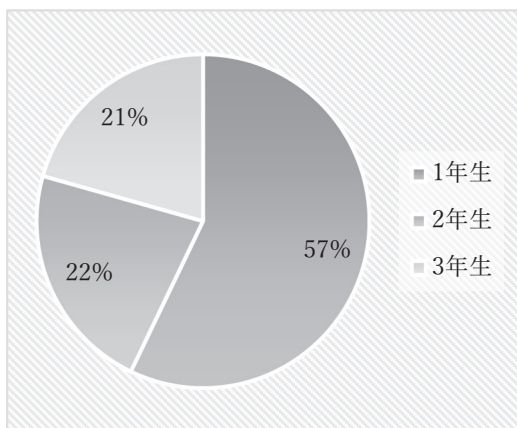
3学科（キャリアビジネス学科、歯科衛生学科、観光ビジネス学科、）500名の学生を対象にデジタルフォームを利用し質問紙調査を行った結果、アンケート回答者数は252名であった。学年別の回答率は、1年生が最も多く57.1%、2年生が22.2%、3年生が20.6%だった。回答者の学科別は、ビジネスキャリア学科が25%、観光ビジネス学科が27%、歯科衛生学科が48%だった。（女性は98.4%、男性1.2%）

回答者の住まいについては、実家が58.3%、アパート下宿が39.3%、その他が2.4%であった。

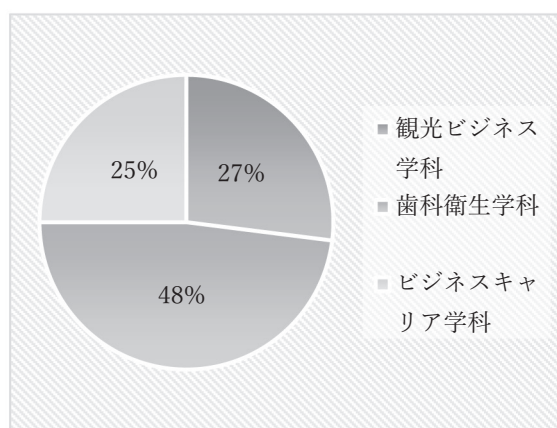
以下では、アンケート調査結果に基づいて述べることとする。

II 大学での授業についての質問項目について結果を示す。

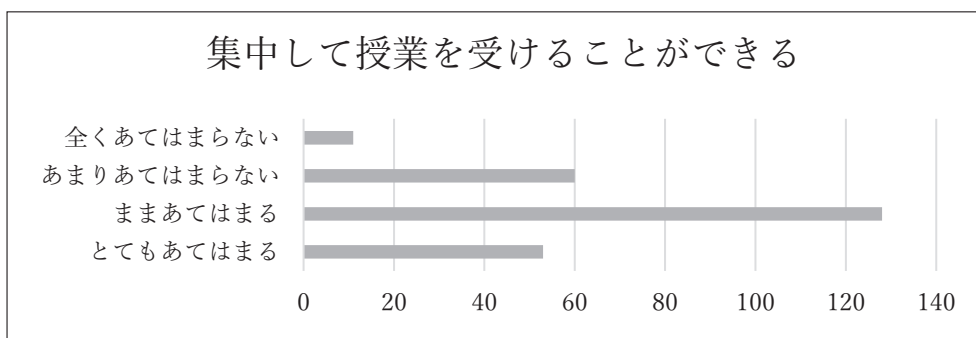
(5)「オンデマンド型授業について」各設問の回答を「とてもあてはまる」「まあまああてはまる」の回答を合計した高いものから順に並べる。一番高い回答数は「f. 課題を適切に提出できる」が92.8%であった。次に、「c. 課題の提示や指示がわかりやすい」と「h. 通常の授業（対面授業）よりも自分のペースで学修することができる」が84.9%、次いで「g. 授業内容を概ね理解できる」が83.3%と8割以上の肯定的な回答が得られた。続いて、「a. 集中して授業を受けることができる」71.8%、「b. 授業の資料が入手しやすい」67.4%、「i. 通常の授業（対面授業）より学習効果を実感できる」53.6%、「e. 教員への質問がしやすい」50.4%、最後は、「d. 教員とのコミュニケーションがスムーズにできる」41.2%であった。この結果からオンデマンド授業は繰り返し受講できるため、授業、課題内容を理解でき、適切な課題提出に繋がったと考えられる。また、課題提出を持って出席確認を行っている授業もあり、課題内容、提出期日を繰り返し確認できたことも示唆された。一方、「d. 教員とのコミュニケーションがスムーズにできる」の回答は「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」が58.7%、「e. 教員への質問がしやすい」が49.6%という結果であった。この要因としては、オンデマンド型授業は一方向での授業となるため、授業時間内での質問の時間の確保が難しいことが考えられる。この点については、教員は学生からの質問方法を授業内で



図表1 学年について



図表2 学科について



図表3 集中して授業を受けることができる

示すなど、学生から質問を受けやすい環境をつくる必要があると考えた。

(6)「ZOOM(双方向)による授業について」は、「a. ZOOM 授業の有無について」252名の回答があり、そのうち「あり」と答えた者が31.7%であった。各設問の回答結果を合計した高いものから順に並べる。

「g. 課題を適切に提出できる」92.6%、「d. 課題の提示や指示がわかりやすい」91.4%、「h. 授業内容を概ね理解できる」88.2%、「b. 集中して授業を受けることができる」86.4%、「c. 授業の資料が入手しやすい」80.8%、「i. 通常の授業(対面授業)よりも自分のペースで学修することができる」77.6%、「j. 通常の授業(対面授業)より学習効果を実感できる」70.2%、「e. 教員とのコミュニケーションがスムーズにできる」67%、「f. 教員への質問がしやすい」62.4%、の順に高く、最後は「k. 学生同士でのグループワークや話し合いがスムーズにできる」59.5%であった。この結果から、ZOOMによる双方向授業は、対面授業に近いこと、また、双方向授業を実施している学科がゼミ制であり、教員の授業内容が分かりやすく、学生の理解と満足度に繋がっているのではないかと推測される。また、「f. 教員への質問がしやすい」は62.4%と6割を超えた結果から、オンデマンド型授業より質問がしやすい環境であること、さらには、教員がその環境づくりや学生とのコミュニケーションがとりやすい授業運営をしていることが示唆された。

(7)「対面授業について」の各設問の結果を示

す。「とてもあてはまる」「まあまああてはまる」の回答を合計した高いものから順に並べる。一番高い回答は「b. 授業の資料が入手しやすい」96.8%であった。次に、「c. 課題の提示や指示がわかりやすい」、「f. 課題を適切に提出できる」、「g. 授業の内容を概ね理解できる」の3項目ともに95.6%の結果である。次いで、「a. 集中して授業を受けることができる」93.7%、「j. 学生同士でのグループワークや話し合いがスムーズにできる」93.3%、「d. 教員とのコミュニケーションがスムーズにできる」91%と90%を超える結果であった。さらに、「i.zoomによる双方向授業よりも学習効果を実感できた」83.4%、「e. 教員への質問がしやすい」80.6%の結果で、最後は「h. オンデマンド(講義動画配信)よりも自分のペースで学修することができる」50.4%であった。この結果から、対面授業においては、授業での資料を入手しやすく、課題の提示と指示がわかりやすく、授業を集中して受けることができることが確認された。さらに課題の提出も適切にできることで満足できていることが示唆された。対面授業の利点としてグループワークや話し合いと教員とのコミュニケーションのスムーズさについても90%以上を占める結果であった。次いで、「i.zoomによる双方向授業よりも学習効果を実感できた」、「e. 教員への質問がしやすい」8割を占めた。Zoomによる双方向授業よりも、学習効果を実感できたと回答した学生が83.4%にとどまった。資料の入手しやすさと集中力の2点において、対面授業と比較すると低い結果であった。また、教員への質問のし

やすさについては、教員とのコミュニケーションがスムーズであるのに対し、「あまりあてはまらない」16.3%、「全くあてはまらない」3.1%と合わせて2割の学生が教員への質問がしにくいとの傾向であった。要因として、本学の学生の特徴から、多数の前での質問に躊躇してしまう内向的な性格や、質問の時間が確保できにくいなど、複数の要因が推測される。一方、オンデマンド（講義動画配信）との学習ペースを比較した質問では、「とてもあてはまる」「まあまああてはまる」の合計50.4%と半数であり、「あまりあてはまらない」40.5%「全くあてはまらない」9.1%の合計が49.6%で、差は0.8ポイントと僅差であった。この結果は、自分の時間のペース選択の自由さという意味において想定できる結果であったと捉えられる。対面授業では、指定された時間と講義室という環境（空間）の拘束感があり、受講者の学生の理解度や板書のペースなど教員のペースで授業を進め学生がそれに合わせるのに対し、オンデマンドにおいては、一時停止や再生など自己のペースで受講でき自由さが広がる。対面授業とオンデマンド（講義動画配信）の大きな違いであり、各特徴のメリットデメリットが学生自身も理解されていることが確認された。

さらに（8）「通常の授業（対面授業）受講時と比較して、遠隔授業を受講していた時のあなたの生活について教えてください」の回答結果を示す。「とてもあてはまる」「まあまああてはまる」の回答を合計した結果、「a. 授業時間以外にも学習する時間が増えた」69.4%、「b. 1日あたりの睡眠時間が増えた」65.9%と学習時間及び睡眠時間ともに増えていると回答した割合が6割を超える結果である。さらに「c. 自分でスケジュール管理を行い、計画的に授業の受講ができた」83.3%と8割以上を占め、計画的な受講ができているとの認識が高い結果であった。次に、「あまりあてはまらない」「あまりあてはまらない」の合計が高い結果を示した。質問「d. 食事時間が不規則になった」では、「あまりあてはまらない」40.1%「全くあてはまらない」37.3%の合計77.4%の結果で

ある。食事の時間についての影響は、7割以上が影響されなかったことが確認された。「e. 人と話す機会が減った」については、「あまりあてはまらない」40.1%「全くあてはまらない」37.3%の合計77.4%の結果である。人と話す機会についても減らすことなく確保できていることが確認された。「f. 考え事が増えた」については、「あまりあてはまらない」40.1%「全くあてはまらない」37.3%の合計77.4%との結果である。個人の内面的な質問として「g. 感情の変化が激しくなった」では、「あまりあてはまらない」45.6%「全くあてはまらない」37.7%の合計83.3%と数字から見ると、感情の変化を感じることなく感情のコントロールができていたと感じる学生が多かった結果が示された。「i. 学習意欲が低下した」の質問に対し、「とてもあてはまる」7.9%「まあまああてはまる」23.4%の合計が31.3%で、「あまりあてはまらない」52%「全くあてはまらない」16.7%の合計68.7%を占めた。結果から意欲低下への影響と考えると、全くあてはまらない16.7%以外は、意欲の低下を感じていたことが確認された。遠隔授業における意欲低下の要因については、自己学習の管理の仕方などについて課題が推測される。「g. 人に会うのが面倒になった」は、「あまりあてはまらない」41.3%「全くあてはまらない」30.6%の合計71.9%と面倒と感じないとの回答結果であった。最後に、「h. 夜更かしする回数が増えた」の質問では、「とてもあてはまる」17.9%「まあまああてはまる」34.1%の合計が52%で、「あまりあてはまらない」30.5%「全くあてはまらない」17.5%の合計48.0%の結果から、過半数の学生に生活習慣への影響があったことが確認された。通学による対面授業の規則的な、時間管理と生活のリズムを考えると、学生自身も影響があったと感じていることが示された。

（9）「今まで授業した遠隔授業全体について：総合的な満足度を教えてください」の結果を述べる。「総合的な満足度を教えてください」の質問に対し、「満足」21.8%、「やや満足」53.2%と合わせて75%、「やや不満」「不満」の合計25%の

回答結果であった。遠隔授業の運用も定着し、学生の順応性の速さもあり、学生自身が満足できていると受け止めている傾向が示された一方で、25%の学生が抵抗や不満を感じていることも明らかになった。

(10)「今後(通常時)も遠隔授業を受講したいと思いますか」の質問に対し、「とても思う」29.4%、「そう思う」45.6%の合計75%であり、「そう思わない」19%「全くそう思わない」6%の合計25%の回答であった。通常時での遠隔授業の継続を要望する学生の割合は高く、一時停止での聞き漏れ、理解不足の解消ができる点や時間の効率的な使い方ができ自己の学習ペースを確立しやすいなどの要因も推測される。一方で25%の学生が対面授業を希望しているが示された。学習形態がもたらす学生の理解度にも注意を払い、科目の特性を活かせるか否かを判断し、学生、教員双方の合意形成を図りながら、より効果的な授業としながら実施していくことが求められていると感じる。また、対面・遠隔の両輪で実施していくために、学生側のWeb授業への負担、学習計画のかなめである時間割などについても、検討すべき課題があると推測される。

Ⅲは、新型コロナウイルス感染症拡大以降の学校施設や制度の利用状況についてのアンケート結果である。

(11)「図書館・自習室などの学習支援施設」については、新型コロナウイルス感染症拡大以降、図書館・実習室などの学習支援施設を「利用したことがない」が最も多く46.8%、ついで「やや満足」25.4%、「満足」23.8%であった。(12)「キャリアセンターなどの就職・進路支援」については、キャリアセンターなどでの就職・進路支援においては、「利用したことがない」が最も多く53.6%、ついで「満足」24.6%、「やや満足」18.3%であった。(13)「学習・生活面でのカウンセリング」は、「利用したことがない」が最も多く73.8%、「やや満足」14.7%「満足」9.1%であった。この結果から、学内の支援利用の低いことが示された。コロナ禍における何らかのダメージを受けている可能

性が高いことが推測される結果であった。

(14)「奨学金などの経済的支援の情報提供」の結果は、「利用したことがない」が39.3%と多く、「やや満足」29.4%、「満足」25.4%と合わせて54.8%と半数を超える結果であった。(15)「奨学金制度の利用について」は、一種30.6%、二種24.2%と半数の学生が奨学金制度を利用し学校生活を過ごしており、奨学金は、高校からの継続し申込を行っている学生も多く、高校からの情報の継続により、情報提供には困らないということが伺える。この調査では、日本学生支援機構の奨学金を約半数の学生が利用している状況であった。

Ⅳは、新型コロナウイルス感染症拡大以降の経済状況と悩み、今後の進路についてのアンケート結果である。

学科の違いや授業の内容によっても異なるが、(17)「現在アルバイトを行っている」が77%と約8割の学生が行っている。「平日に週3回以上行っている」43.2%と圧倒的に多く、ついで「週に1~2回」が36.2%であった。長期期間の休みになると「週に3以上行っている」が69.7%、「週に1~2回」が14.6%と休みを利用しアルバイトを行っている学生が多いことが伺える。

アルバイトを行っている学生の主な使い道に関しては、「娯楽・稽古・交際費」44.8%、「修学費」12.3%、「通信費」13.8%を占めており、奨学金を借りて、学費や生活費に利用し、アルバイト代はお小遣いとして利用していた。

(18)「現在、不安に思っていることについて」の結果である。

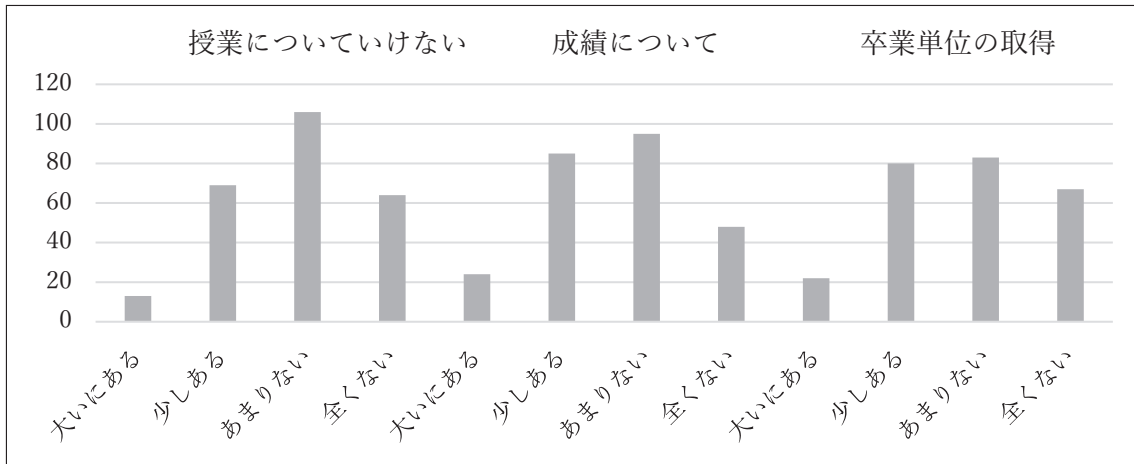
友人と思うように作れないが「全くない」44%、「あまりない」36.9%、「少しある」14.7%とコロナ禍の中でも、友人関係で困っていないことが伺える。

友人と思うように交流することができないという質問にでも「全くない」42.5%、「あまりない」34.9%、「少しある」15.9%であった。

授業についていけないという質問データにおいても「あまりない」41.2%、「少しある」27.4%「全くない」25.4%と回答の結果であった。成績・卒

業単位の取得に関しても「あまりない」が3割と
なっており「少しある」や「全くない」といった

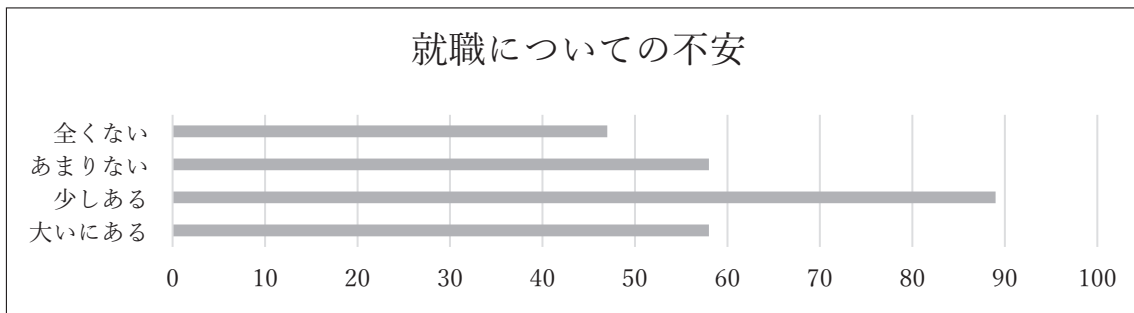
勉強に関しての心配がないことが確認された。



図表4 現在不安に思っていることについて

就職に関しては、「少しある」35.3%、「大いにある」と「あまりない」がともに23%と就職に関する不安が多く、コロナ禍での影響が大いに

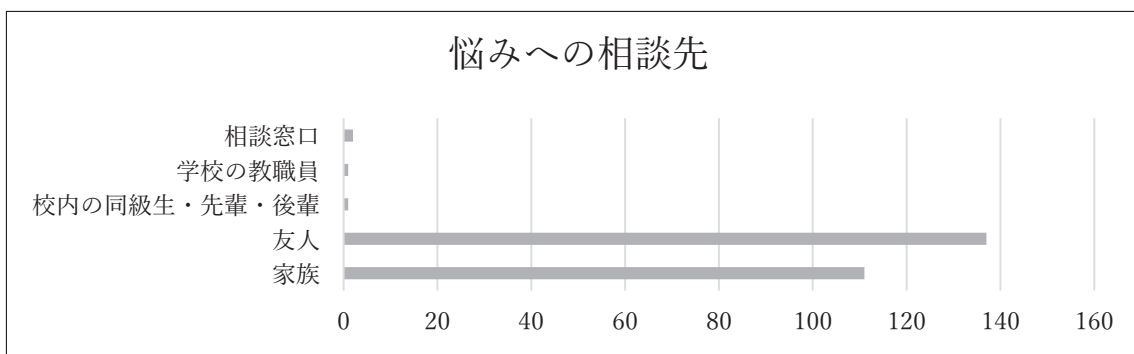
関係すると考えられる。健康面や経済面からは「あまりない」「少しある」といった心配がある学生とない学生の個人差がある結果であった。



図表5 就職についての不安

(19)「悩みへの相談先」であるが、「友人」54.4%、「家族」44%となっており、相談窓口を利用する学生は少ないことがわかる。学生の現状

を把握するために、相談窓口は大きな役割を果たすため利用を促す必要が考えられる。



図表6 悩みへの相談先

(21)「退学・休学について」も「考えていない学生」96.8%と、コロナ禍の状況下においても、学生生活を有意義に過ごしていることが示された。

(22)「要望・不安などについての記入」においては、新型コロナウイルス感染症拡大以降、学生差はあるものの、ストレスによる体調を崩す、や、将来や働いていけるか、就職活動に対する不安であるといった訴えがあった。やWeb授業に関しての資料についての希望や対面での授業を希望したいなどと言った意見があった。

3-2 オンライン（遠隔）授業と学生の評価

今回のアンケート調査はコロナ禍下で行った授業や生活などについて意識調査を行っている。本節では、授業形式の変更により学生はどのように感じているかを中心に取り上げることとする。

なお、授業形式においては、遠隔授業である「オンデマンド」、「ZOOMによる双方向授業」および「対面授業」について質問をしており、以下では単純集計表に基づいて分析を行う。

まず、(1)「集中して授業を受けることができる」についての肯定の答え（とてもあてはまる／まあまああてはまる）（とてもあてはまる／まあまああてはまる）は、「対面授業」93.7%、「ZOOMによる双方向授業」86.4%、「オンデマンド」71.8%であった。学生らが集中して講義を受けているのは対面授業であり、オンデマンド授業では教員が一方的に講義を行うことと学習者の顔が見えない空間で講義を受けていることが影響されているかもしれない。

(2)「授業の資料が入手しやすい」についての肯定の答え（とてもあてはまる／まあまああてはまる）は、「対面授業」96.8%、「ZOOMによる双方向授業」80.8%、「オンデマンド」67.4%であった。

(3)「課題の提示や指示が分かりやすい」についての肯定の答え（とてもあてはまる／まあまああてはまる）は、「対面授業」95.6%、「ZOOMによる双方向授業」91.4%、「オンデマンド」84.9%

であった。

(4) 教員とのコミュニケーションがスムーズにできる」についての肯定の答え（とてもあてはまる／まあまああてはまる）は、「対面授業」91.7%、「ZOOMによる双方向授業」67.0%、「オンデマンド」31.2%であった。

(5)「教員への質問がしやすい」についての肯定の答え（とてもあてはまる／まあまああてはまる）は、「対面授業」80.6%、「ZOOMによる双方向授業」62.4%、「オンデマンド」50.4%であった。

この結果からは対面授業が学生にとって質問しやすいことがわかるとともにオンデマンド授業の弱点がよくわかる。

(6)「課題を適切に提出できる」についての肯定の答え（とてもあてはまる／まあまああてはまる）は、「対面授業」95.6%、「ZOOMによる双方向授業」92.6%、「オンデマンド」92.8%であった。

3つの授業形式において課題についてはそれほど差がないことが分かる。

(7)「授業内容を概ね理解できる」についての肯定の答え（とてもあてはまる／まあまああてはまる）は、「対面授業」95.6%、「ZOOMによる双方向授業」88.2%、「オンデマンド」83.3%であった。

対面授業の場合教員が学生の表情をみながら補足説明をするなど、臨機応変に学生に対応することができる。一方、オンデマンド授業は教員との直接関わりはないが、授業内容を何度も繰り返して視聴することができることからそれほど差はないことがわかる。

(8)「通常の授業（対面授業）よりも自分のペースで学修することができる」についての肯定の答え（とてもあてはまる／まあまああてはまる）は、「ZOOMによる双方向授業」77.6%、「オンデマンド」84.9%であった。

(9)対面授業が「オンデマンド（講義動画配信）よりも自分のペースで学修することができる」と答えた割合は50.4%であり、「ZOOMによる双方向授業よりも学修効果を実感できる」と答えたのは、83.4%であった。

(8)と(9)の結果からすると、オンデマンド授業が学生のペースに合わせた学修ができることがわかる。また、学修効果を最も感じているのは対面授業であることがわかる。学修成果は①で取り上げたようにいかに授業を集中していたかが影響される。このことは対面授業の意義ともいえる。

(10)「学生同士でのグループワークや話し合いがスムーズにできる」についての肯定の答え(とてもあてはまる/まあまああてはまる)は、「対面授業」93.3%、「ZOOMによる双方向授業」59.5%であった。この結果からは、対面授業は教室といった統制された空間で教員の視野が届くところで授業が行われる。一方、ZOOMによる双方向授業は、学生とリアルタイムで意見交換はできるものの、相互のネット環境や制限された画面上で行うために満足度は低くなっている。

4. 学生の学修権を保障するための教育とは

日本国内では2020年1月に新型コロナウイルスの拡大によりキャンパスライフにおいても大きな変化をもたらした。「コロナ世代」という名称で大括りされ、行動の制限を余儀なくされ授業やサークル活動などへの制限を余儀なくされた。

なお今回のアンケート調査の目的は、コロナ禍における授業提供体制に対して学生はどのように捉え、課題だと考えているか明らかにするとともに教育の質保証を探ることであった。アンケート調査結果からは、日常生活やキャンパスライフにおいて感染を防ぐための対策において慣れているものの、いざ自分が濃厚接触者やコロナ感染者した場合、感染経路が分からず悩んでいるケースも見られた。特に学生は濃厚接触者や、コロナに感染した場合、授業を受けられず5日から7日間は自宅待機になってしまう。前記の理由で欠席になった場合「公欠」として扱われるものの、履修状況によるが授業を1回から2回休むことになる。ちなみに授業を休んだ場合は特に配慮はなく、欠席した分の授業は自己責任になるのが現状である。このように、大学側はコロナによって授業を

受けられなかった学生についての配慮がないのが現状である。現状の大学の体制は、学生のなかで感染者が発生した場合、いかに他の学生への感染拡大を食い止めるかに重点が置かれており、集団感染を防ぐための対策であったと言える。

一方、文部科学省から2022年11月28日出された「新型コロナウイルス感染症対策の基本的対処方針」が変更され、大学や専門学校等に対し、引き続き、生徒の学修機会の確保と感染症対策の徹底の両立に取り組むことが求められた。

また当方針では、大学等については、これまで同様、一律に臨時休業を求めるのではなく、感染防止と面接授業・遠隔授業の効果的実施等による学修機会の確保の両立に向けて適切に対応することへの要請されたのである。さらに、遠隔授業もより一層活用した学修者の学修機会の確保が強調されている。

しかし、コロナ感染をめぐって政府も大学もクラスターの防止対策であり、万が一学生が感染した際にはどのように学修機会を確保するか、また、そのケアをどうするかについては放置されていたと言っても過言ではない。

5. コロナ禍における大学授業のあり方について

近年、少子化による18歳人口の減少やグローバル化は高等教育機関においても大きな影響を及ぼしており、大学のあり方が問われている。特に少子化に伴う大学入学者の減少が見込まれる中、大学側はその代案として教育の質保証やキャリア教育に積極的に取り組むなど学生を確保するための取り組みを積極的に行っている。よって大学教育の現場においても教育の「質」を重視した、すなわち学生主体になる授業の提供が求められるようになった。教授方法においてもアクティブラーニングが強調され、学生が主体となる参加型授業がより強調されている。

こうした状況下、2019年12月に突如現れ世界に大きな被害を与えた新型コロナウイルス感染症は学生の授業のみならず精神的な面にも大きな影響を与えた。2020年12月厚生労働省社会・援護局調査結

果によると、新型コロナウイルスの拡大により、不安やストレスを解消できていると回答した人が5割弱で、不安やストレスをうまく発散・解消できていないと回答した人は2割である。行動制限などの対策により人々の感染に対する不安や孤立などに伴うストレスなど、日常生活のみならず社会全体に影響を及ぼした。

授業においては、学生のみならず教員もその対応に追われていたのも事実である。オンライン授業の活用を文部科学省から2020年3月24日に方針が出されたことにより、多くの大学の授業に活用されることとなったが、コロナ禍であっても授業の質保証を念頭に置いたオンライン授業が求められた。しかし、オンライン授業を行うにあたりハード面すなわち、ネット環境の整備は不可欠なものであり、授業を提供する大学側や授業を受ける学生、双方ともにネットワーク環境を即座に整える必要性があり、その環境を整えることによってオンライン授業が実現するものであり、現実的に難しいものであった。

オンライン授業の実施にあたり、ほとんどの大学は「対面授業」を想定したシラバス作成であったため教員側はいかに教育の質を担保できるかが大きな課題であった。

2020年度の授業の実施にあたり文部科学省は、学生に不利益にならないよう対面授業を弾力的な運営を認めるもとであり、よって状況に応じて授業の運営ができるものである（大学設置基準第25条第1項）。繰り返しになるが、こうしたオンライン授業は対面授業に相当する教育効果が求められた。しかし、コロナ以前は対面授業が主流であったためオンライン授業実施においては大学の力量によってバラつきがあったのも事実である。よって文部科学省の2020年12月23日の「大学等における新型コロナウイルス感染症対策の徹底と学生の学修機会の確保について」に関する通知によると、以下のことが大学教員に求められてい

る。

- ① 授業担当教員の各授業ことの指導計画の下に実施されていること
- ② 授業担当教員が、オンライン上での出席管理や確認的な課題の提出などにより、当該授業の実施状況を十分把握していること
- ③ 学生一人一人へ確実に情報を伝達する手段や、学生からの相談に速やかに応じる体制が確保されていること
- ④ 大学等として、どの授業科目が遠隔授業等で実施されているかなど、個々の授業の実施状況について把握していること

上述のように、政府からの通知には教員への負担がかなり大きいことがわかる。なぜならば今まで日本の大学は対面授業を前提としており、よってオンライン授業に対する授業計画の作成においてはほとんどの教員が手探り状態であったからである。オンライン授業を実施するにあたっては教員自身がネット環境を整えた上で授業を行う必要がある。また、オンライン授業を行うための技術的な面においても教員同士でばらつきがあるのも事実である。このような現状から教員へのFD実施は不可欠であるが、これについては教員を対象に検証を行う必要がある。なお、教員を対象に行った研究では、両角ら（2022）⁸によって行った全国大学教員調査がある。両角らの研究では、遠隔教育の導入の実態を明らかにしつつ将来何を意味するかについて検討を行っている。教員らはオンライン授業を行った場合、学生の授業参加の低さ、それから教員の負担の増加や通信環境面・技術面の不備がオンライン授業を行う際の課題として認識していることである。また、授業内容や教員らの専門分野によってオンライン授業に対しての認識が異なっていることから、オンライン授業のメリットを一律に語ることはできない。

オンライン授業の実施においては学生側にも教員側にもメリットやデメリットはある。しかし、

⁸ 両角亜希子, 王帥, 濱中義隆「コロナ禍における大学教育の実態とそのインパクト：全国大学教員調査から」東京大学大学院教育学研究科紀要 61 437-457, 2022.03.

一つ言えるのは対面授業であるがゆえに参加できなかった学習者にとっては学習機会に繋がる可能性があると思われることからオンライン授業の検証を今後も続ける必要がある。

6. おわりに

今後大学をめぐって18歳人口の減少による空洞化や社会の変化に対応できる人材育成がさらに求められることになる。特に大学授業をめぐっては、従来の教員から一方的に学生のみが評価（アセスメント）されるのみではなく、学生による授業評価を積極的に取り入れることによって授業の改善が図られるなど学ぶ側の視点がより重要になってきている。2020年から始まった新型コロナウイルス感染症の拡大により教育の現場では、対面授業からオンライン授業への切り替えや並行が求められている。コロナ以前は対面授業が主に流れであったため、日本政府は「対面授業＝質保証」といった認識の下で大学における授業を対面授業に切り替えることが進められ3年目を迎えている。新型コロナウイルス感染症の猛威はいまだに収まらず授業に影響を及ぼしている。オンライン授業においては環境整備がある程度進んでいることから教育の現場では臨機応変に対応をしているのが現状である。上述したように仙台青葉学院短期大学における学生の意識調査からもオンライン授業のメリットはあり、学生にとって時間の有効活用ができているのも事実である。さらに、オンライン授業を対面授業と比較すると対面授業を高く評されているのも事実である。また、本学では教員によってオンライン授業運用においてバラつきがあること、また、オンライン授業の検証が十分ではないため、オンライン授業の教育的効果の検証は不可欠であり今後も続けてデータ構築が必要である。本稿では主に授業の形式に焦点はあて取り上げているため、部活動、課外活動については触れていない。またコロナかで行った3年間のオンライン授業の実績と課題について整理する必要がある。今後も学生調査をとおして、学生のニーズにあった授業形式を取り入れつつ教育の

質保証を目指した研究に繋げることにしたい。

【参考文献】

- ・原美和子「新型コロナは私たちの暮らしや意識をどう変えたか ～「新型コロナウイルス感染症に関する世論調査」の結果から～、『放送研究と調査』2021.7.
- ・厚生労働省社会・援護局「新型コロナウイルス感染症に関するメンタルヘルスに関する調査結果概要について」令和2年12月25日.

参考資料

アンケート調査結果 単純集計表

I. あなたご自身について※当てはまるものにチェックをしてください。			
Q.1	学年について	回答数	割合
	1年生	144	57.1%
	2年生	56	22.2%
	3年生	52	20.6%
	合計	252	
Q.2	性別	回答数	割合
	女性	248	98.4%
	男性	3	1.2%
	その他	1	0.4%
	合計	252	
Q.3	現在の住まい	回答数	割合
	実家	147	58.3%
	アパート・下宿	99	39.3%
	その他	6	2.4%
	合計	252	
Q.4	所属学科	回答数	割合
	観光ビジネス学科	68	27.0%
	歯科衛生学科	121	48.0%
	ビジネスキャリア学科	63	25.0%
	合計	252	
II. 大学での授業について			
Q.5	オンラインマンダ授業について	回答数	割合
a	集中して授業を受けることができる	53	21.0%
	まあまあである	128	50.8%
	あまりあてはまらない	60	23.8%
	全くあてはまらない	11	4.4%
	合計	252	
b	授業の資料が入手しやすい	回答数	割合
	とてまああてはまる	59	23.4%
	まああてはまる	111	44.0%
	あまりあてはまらない	68	27.0%
	全くあてはまらない	14	5.6%
	合計	252	
c	課題の提示や指示が分かりやすい	回答数	割合
	とてまああてはまる	60	23.8%
	まああてはまる	154	61.1%
	あまりあてはまらない	36	14.3%
	全くあてはまらない	2	0.8%
	合計	252	
d	教員とのコミュニケーションがスムーズにできる	回答数	割合
	とてまああてはまる	25	9.9%
	まああてはまる	79	31.3%
	あまりあてはまらない	118	46.8%
	全くあてはまらない	30	11.9%
	合計	252	
e	教員への質問がしやすい	回答数	割合
	とてまああてはまる	39	15.5%
	まああてはまる	88	34.9%
	あまりあてはまらない	82	32.5%
	全くあてはまらない	43	17.1%
	合計	252	

f			
課題を適切に提出できる	回答数	割合	
とてまああてはまる	113	44.8%	
まああてはまる	121	48.0%	
あまりあてはまらない	16	6.3%	
全くあてはまらない	2	0.8%	
合計	252		
g			
授業内容を概ね理解できる	回答数	割合	
とてまああてはまる	62	24.6%	
まああてはまる	148	58.7%	
あまりあてはまらない	41	16.3%	
全くあてはまらない	1	0.4%	
合計	252		
h			
通常の授業(対面授業)よりも自分のペースで学修することができる	回答数	割合	
とてまああてはまる	134	53.2%	
まああてはまる	80	31.7%	
あまりあてはまらない	34	13.5%	
全くあてはまらない	4	1.6%	
合計	252		
i			
通常の授業(対面授業)よりも学習効果を実感できる	回答数	割合	
とてまああてはまる	44	17.5%	
まああてはまる	91	36.1%	
あまりあてはまらない	88	34.9%	
全くあてはまらない	29	11.5%	
合計	252		
Q.6 zoom による双方向授業			
a	zoom 授業の有無について	回答数	割合
	あり(有)	80	31.7%
	なし(無)	172	68.3%
	合計	252	
b			
集中して授業を受けることができる	回答数	割合	
とてまああてはまる	34	35.4%	
まああてはまる	49	51.0%	
あまりあてはまらない	12	12.5%	
全くあてはまらない	1	1.0%	
合計	96		
c			
授業の資料が入手しやすい	回答数	割合	
とてまああてはまる	24	25.5%	
まああてはまる	52	55.3%	
あまりあてはまらない	17	18.1%	
全くあてはまらない	1	1.1%	
合計	94		
d			
課題の提示や指示が分かりやすい	回答数	割合	
とてまああてはまる	28	30.1%	
まああてはまる	57	61.3%	
あまりあてはまらない	8	8.6%	
全くあてはまらない	0	0.0%	
合計	93		
e			
教員とのコミュニケーションがスムーズにできる	回答数	割合	
とてまああてはまる	27	28.7%	
まああてはまる	36	38.3%	
あまりあてはまらない	29	30.9%	
全くあてはまらない	2	2.1%	
合計	94		
f			
教員への質問がしやすい	回答数	割合	
とてまああてはまる	26	28.0%	
まああてはまる	32	34.4%	
あまりあてはまらない	29	31.2%	
全くあてはまらない	6	6.5%	
合計	93		

g	課題を適切に提出できる	割合
	とてもあてはまる	34
	まああてはまる	53
	あまりあてはまらない	6
	全くあてはまらない	1
合計	94	割合
h	授業内容を概ね理解できる	割合
	とてもあてはまる	30
	まああてはまる	52
	あまりあてはまらない	10
	全くあてはまらない	1
合計	93	割合
i	通常の授業（対面授業）よりも自分のペースで学修することができる	割合
	とてもあてはまる	41
	まああてはまる	32
	あまりあてはまらない	21
	全くあてはまらない	0
合計	94	割合
j	通常の授業（対面授業）よりも学習効果を実感できる	割合
	とてもあてはまる	25
	まああてはまる	41
	あまりあてはまらない	24
	全くあてはまらない	4
合計	94	割合
k	学生同士でのグループワークや話し合いがスムーズにできる	割合
	とてもあてはまる	21
	まああてはまる	35
	あまりあてはまらない	31
	全くあてはまらない	7
合計	94	割合
Q.7 対面授業について	集中して授業を受けることができる	割合
	とてもあてはまる	98
	まああてはまる	138
	あまりあてはまらない	16
	全くあてはまらない	0
合計	252	割合
b	授業の資料が入手しやすい	割合
	とてもあてはまる	148
	まああてはまる	96
	あまりあてはまらない	8
	全くあてはまらない	0
合計	252	割合
c	課題の提示や指示が分かりやすい	割合
	とてもあてはまる	123
	まああてはまる	118
	あまりあてはまらない	10
	全くあてはまらない	1
合計	252	割合
d	教員とのコミュニケーションがスムーズにできる	割合
	とてもあてはまる	107
	まああてはまる	124
	あまりあてはまらない	15
	全くあてはまらない	6
合計	252	割合

e	教員への質問がしやすい	割合
	とてもあてはまる	69
	まああてはまる	134
	あまりあてはまらない	41
	全くあてはまらない	8
合計	252	割合
f	課題を適切に提出できる	割合
	とてもあてはまる	117
	まああてはまる	124
	あまりあてはまらない	11
	全くあてはまらない	0
合計	252	割合
g	授業内容を概ね理解できる	割合
	とてもあてはまる	94
	まああてはまる	147
	あまりあてはまらない	11
	全くあてはまらない	0
合計	252	割合
h	オンデマンド（講義動画配信）よりも自分のペースで学修することができる	割合
	とてもあてはまる	37
	まああてはまる	90
	あまりあてはまらない	102
	全くあてはまらない	23
合計	252	割合
i	Zoom による双方向授業よりも学習効果を実感できる	割合
	とてもあてはまる	71
	まああてはまる	139
	あまりあてはまらない	33
	全くあてはまらない	9
合計	252	割合
j	学生同士でのグループワークや話し合いがスムーズにできる	割合
	とてもあてはまる	131
	まああてはまる	104
	あまりあてはまらない	8
	全くあてはまらない	9
合計	252	割合
Q.8 通常の授業（対面授業）受講時と比較して、遠隔授業を受講していた時のあなたの生活について教えてください。		
a	授業時間以外にも学習する時間が増えた	割合
	とてもあてはまる	50
	まああてはまる	125
	あまりあてはまらない	60
	全くあてはまらない	17
合計	252	割合
b	1日あたりの睡眠時間が増えた	割合
	とてもあてはまる	95
	まああてはまる	71
	あまりあてはまらない	67
	全くあてはまらない	19
合計	252	割合
c	自分でスケジュール管理を行い、計画的に授業の受講ができた	割合
	とてもあてはまる	82
	まああてはまる	128
	あまりあてはまらない	36
	全くあてはまらない	6
合計	252	割合

参考資料

アンケート調査結果 単純集計表

d	食事時間が不規則になった とてもあてはまる まああてはまる あまりあてはまらない 全くあてはまらない 合計	回答数 13 44 101 94 252	割合 5.2% 17.5% 40.1% 37.3%
e	人と話す機会が減った とてもあてはまる まああてはまる あまりあてはまらない 全くあてはまらない 合計	回答数 35 91 93 33 252	割合 13.9% 36.1% 36.9% 13.1%
f	考えごとが増えた とてもあてはまる まああてはまる あまりあてはまらない 全くあてはまらない 合計	回答数 37 73 110 32 252	割合 14.7% 29.0% 43.7% 12.7%
g	感情の変化が激しくなった とてもあてはまる まああてはまる あまりあてはまらない 全くあてはまらない 合計	回答数 10 32 115 95 252	割合 4.0% 12.7% 45.6% 37.7%
h	夜更かしする回数が増えた とてもあてはまる まああてはまる あまりあてはまらない 全くあてはまらない 合計	回答数 45 86 77 44 252	割合 17.9% 34.1% 30.6% 17.5%
i	学習意欲が低下した とてもあてはまる まああてはまる あまりあてはまらない 全くあてはまらない 合計	回答数 20 59 131 42 252	割合 7.9% 23.4% 52.0% 16.7%
j	人に会うのが面倒になった とてもあてはまる まああてはまる あまりあてはまらない 全くあてはまらない 合計	回答数 21 50 104 77 252	割合 8.3% 19.8% 41.3% 30.6%
Q.9	今まで受講した遠隔授業全体について：総合的な満足度を教えてください。 不満 やや不満 やや満足 満足 合計	回答数 8 55 134 55 252	割合 3.2% 21.8% 53.2% 21.8%
Q.10	今後（通常時）も遠隔授業を受講したいと思いますか 全くそう思わない そう思わない そう思う とても思う 合計	回答数 15 48 115 74 252	割合 6.0% 19.0% 45.6% 29.4%

III	学校施設や制度の利用状況について Q.11 図書類・自習室などの学習支援施設 不満 やや不満 やや満足 満足 利用したことがない 合計	回答数 3 7 64 60 118 252	割合 1.2% 2.8% 25.4% 23.8% 46.8%
Q.12	キャリアセンターなどでの就職・進路支援 不満 やや不満 やや満足 満足 利用したことがない 合計	回答数 2 7 46 62 135 252	割合 0.8% 2.8% 18.3% 24.6% 53.6%
Q.13	学習・生活面でのカウンセリング 不満 やや不満 やや満足 満足 利用したことがない 合計	回答数 1 5 37 23 186 252	割合 0.4% 2.0% 14.7% 9.1% 73.8%
Q.14	奨学金などの経済的支援に関する情報提供 不満 やや不満 やや満足 満足 利用したことがない 合計	回答数 3 12 74 64 99 252	割合 1.2% 4.8% 29.4% 25.4% 39.3%
Q.15	奨学金制度の利用について 日本学生支援機構 一種 日本学生支援機構 二種 北社学園奨学金 利用していない 併用 併合 日本学生支援機構 一種・二種両方 母子父子寡婦基金 由利本荘市奨学金 教育ローン 合計	回答数 77 61 4 102 3 1 1 1 1 252	割合 30.6% 24.2% 1.6% 40.5% 1.2% 0.4% 0.4% 0.4% 0.4%
IV	経済状況と悩み、今後の進路について a 現在、アルバイトの有無について あり なし【Q.18】に進んでください 合計 b 平日・普段学校のある日 まったくしていない 不定期 週に1～2日 週に3回以上 合計 c 夏休み等の長期期間の休み まったくしていない 不定期 週に1～2日 週に3回以上 合計	回答数 194 58 252 21 20 72 86 199 11 20 29 138 198	割合 77.0% 23.0% 割合 割合 10.6% 10.1% 36.2% 43.2% 割合 割合 5.6% 10.1% 14.6% 69.7%

参考資料 アンケート調査結果 単純集計表

Q.17	アルバイト収入の主な使い道について	割合
	授業料等の学校への納付金	3.4%
	修学費	1.5%
	課外活動費（サークル・ボランティア）	0.0%
	教科書や図書代	1.5%
	娯楽・稽古・交際費	44.8%
	住居・光熱費	8.4%
	通信費	0.5%
	その他の日常費	14
	貯金	12.3%
	通学費	11
	食費	28
	自分のスマホの料金、家に少しお金を入れる	0.5%
	趣味	1
	生活費全般	0.5%
	合計	203
Q.18	現在、不安に思っていることについて	割合
a	友人が思うように作れない	割合
	大いにある	11
	少しある	37
	あまりない	93
	全くない	111
	合計	252
b	友人と思うように交流することができない	割合
	大いにある	17
	少しある	40
	あまりない	88
	全くない	107
	合計	252
c	授業についていけない	割合
	大いにある	13
	少しある	69
	あまりない	106
	全くない	64
	合計	252
d	成績について	割合
	大いにある	24
	少しある	85
	あまりない	95
	全くない	48
	合計	252
e	卒業単位の取得	割合
	大いにある	22
	少しある	80
	あまりない	83
	全くない	67
	合計	252
f	就職先	割合
	大いにある	58
	少しある	89
	あまりない	58
	全くない	47
	合計	252
g	健康面	割合
	大いにある	13
	少しある	46
	あまりない	93
	全くない	100
	合計	252

h	経済面	割合
	大いにある	37
	少しある	79
	あまりない	87
	全くない	49
	合計	252
i	卒業できるか心配	割合
	大いにある	29
	少しある	71
	あまりない	84
	全くない	68
	合計	252
Q.19	悩みの相談先	割合
	家族	111
	友人	137
	校内の同級生・先輩・後輩	1
	学校の教職員	1
	相談窓口	2
	合計	252
Q.20	卒業後の希望する進路について	割合
	民間企業に就職	78
	公務員になる	14
	進学する（4年制大学への編入学）	1
	医療機関	99
	まだ決まってい	56
	クラウドスタッフ	1
	その他	1
	専門学校へ進学	1
	専門学校	1
	合計	252
Q.21	退学・休学について	割合
	退学することを真剣に考えている	0
	退学することを少し考えている	5
	休学することを真剣に考えている	0
	休学することを少し考えている	3
	退学および休学することは、考えていない	244
	合計	252
Q.22	要望・不安などがありましてらご記入ください	
	最近、ストレスで体調が悪くないことが増えた	
	将来が不安すぎて死にそう	
	1コマなめるべく少くなくしていただきたいです	
	新校舎に駐輪場はありませんか？	
	就職に関して明確なビジョンが見えないのが不安です。	
	就職活動について不安が沢山ある	
	Web授業のある教科の資料を全部配布して欲しい。	
	オンデマンド授業は大変授業料を無駄にしている気持ちになります。すぐにでも対面での授業に全シフトチェンジしていただきたいです。奨学金を全額借りていてるので真剣に通いたいです。	
	就職活動が中々進められないこと。	
	就活期間の交通費を学校が負担するか、家から近い歯医者を実習先にしてほしい	
	実習期間の資料を事前に配布してほしい	
	働いていけるかが不安、人間関係に不安は無いがこのままでも良いとも思っていない	